#### 【令和元年 文化庁日本語教育大会・京都大会】 《パネルディスカッション》

### 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の

## 標準的なカリキュラム案

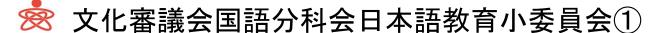
について

一言語政策と言語教育の視点から一

国際教養大学 伊東祐郎

# 最近のスタンダードの動向

- CEFR (Common European Framework of References for Language: Learning, teaching, assessment)
- ALTE (The Association of Language Testers in Europe)
  Framework
- ACTFL (American Council for the Teaching of Foreign Language) Proficiency Guidelines
- Center for Canadian Language Benchmarks
- · JF日本語教育スタンダード(国際交流基金)
- ・ 標準的なカリキュラム案(文化庁)



#### 〇平成21年1月

#### 【報告書】

「日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者と しての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討」

⇒以下の4点についてまとめ

- 体制整備⇒国・都道府県・市町村の役割分担 (1)
- ② 各機関の連携協力の在り方
- ③ コーディネート機関・人材の必要性
- ④ 日本語教育の内容の大枠



文化審議会国語分科会日本語教育小委員会②

〇生活者としての外国人に対する日本語教育の目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、 「生活者としての外国人」が日本語で 意思疎通を図り生活できるようになること



# 〇生活者としての外国人に対する日本語教育の目標 日本語を使って…

- ①健康かつ安全に生活を送ることができる
- ②自立した生活を送ることができる
- ③相互理解を図り、社会の一員として生活を送る ことができる
- ④文化的な生活を送ることができる

ようにすること



### ☆ カリキュラム案について①

- カリキュラム案で扱う生活上の行為 1
- O 健康·安全に暮らす (7単位)
  - 健康を保つ
  - 安全を守る
- 住居を確保・維持する(2単位)
  - 住居を確保する
  - 住環境を整える
- 〇 消費活動を行う(4.5単位)
  - 物品購入・サービスを利用する
  - お金を管理する
- O 目的地に移動する (3.5単位)
  - 公共交通機関を利用する
  - 自力で移動する

- 〇 人とかかわる (2.5単位)
  - 他者との関係を円滑にする
- 〇 社会の一員となる(4.5単位)
  - 地域・社会のルール・マナーを守る
  - 地域社会に参加する
- **○** 自身を豊かにする (2単位)
  - 余暇を楽しむ
- 〇 情報を収集・発信する(4単位)
  - 通信する
  - マスメディアを利用する



それぞれの生活上の行為について、より具体的に イメージしやすいように

- 具体的な達成目標である「能力記述」 (1)
- ② 生活上の行為を行う「場面」
- ③ 日本語での「やり取りの例」

さらに「やり取りの例」に含まれる

- ④ 発話の「機能」
- ⑤「文法」
- ⑥「語彙」
- ⑦「4技能」

を記述。



#### カリキュラム案について③

- 2 カリキュラム案の活用及び指導方法のポイント
  - (1)地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫
  - ② 行動・体験中心の活動
  - ③ 専門家・地域住民との協働
  - ④ 対話による相互理解の促進

獲得された意思疎通の手段により、人とつながること、 言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力 を取り戻したり、発揮できたりするようになること、そして 社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に 参画すること=「エンパワーメント」を実現することが重要。